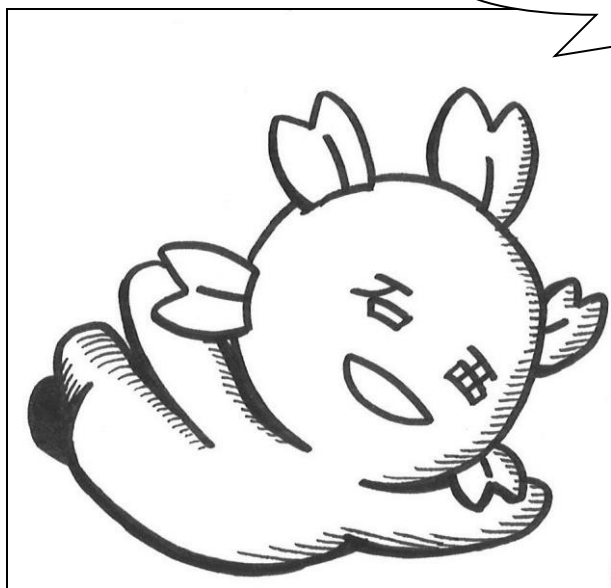


令和6年度

第1回 進路説明会

都立高校と私立高校の
入学選抜制度の概要を中心に



練馬区立石神井西中学校

令和6年6月14日(金)

保護者・生徒兼用資料

3年 組 番 氏名

目次

P2, 3	1 進路選択とは 2 年間計画
P3~	3 中学校卒業後の進路区分 ○就職について
P4~	○進学について ○全日制高校
P8~	○定時制高校 ○高等専門学校 ○高等専修学校 ○その他
P9~	4 都立高校と私立高校の違い
P10~	5 「体験入学」「学校説明会」「学校見学」「個別相談」について 6 Q&A 保護者の方からの質問への回答
P12	資料1 都立高校総合得点の計算の仕方 資料2 本校の推薦基準
P13	資料3 第1回進路希望調査(見本)
P14	資料4 4年間の進路先一覧(令和2~5年度)
P15	資料5 高等学校就学支援金制度について
P16	資料6 奨学金のお知らせ 東京都育英資金

1 進路選択とは ～進路を考えるうえで大切にしてほしいこと～

自分の進路を自分の言葉で説明できる

- ・自分の強みは何か。どのように伸ばすか。
- ・なぜその進路を選択するのか。
- ・どこで、自分を成長させるのか。
- ・どのような生き方をしたいのか、どのような職業につきたいのか。
- ・自分の性格、適性、強みは何か。
- ・自分の能力や学力はどのくらいなのか。
- ・自分だけで解決しようとしないうえに ⇒ 家族の考えや学校のアドバイスをよく聞き、話し合う。
- ・進路選択の最終決定は生徒本人の意思⇒生徒の意志を十分に尊重し、保護者と相談し進路選択・決定する。

2 年間計画

	進路指導	家庭でのとりくみ (◇生徒○保護者)	学習のすすめかた/テスト
4月	全国学力調査 18日(木)	◇○進路決定までの流れをつかむ	◎基礎固め期 ☆授業の予習・復習 ☆1・2年の復習
5月		○子どもの進路希望と適性を考える ◇○家庭学習の習慣と環境づくり	
6月	第1回進路説明会(生徒・保護者) 資料を基に説明 第1回進路希望調査 希望調査は17日(月)に配布予定。 24日(月)～28日(金)提出	◇○現時点での学力を正しく認識し、今後の取り組み方を話し合う ◇○子どもの希望を確認、保護者や先生のアドバイスを受け、進路の方向づけをする	第1回領域別テスト 6月6日(木) 第1回定期考査 19日(水)～21日(金)
7月	三者面談(希望制) 10日(水)～		
8月	高校訪問 学校説明会 個別相談会 ⇒ 体験入学	◇○希望の進路について、具体的に話し合う ◇○計画的な学習で1・2年の復習、実行、規則的な生活を送る ◇○志望校の行事・説明会・学校見学などに積極的に参加する	◎実力養成期 ☆今までの総復習 ☆不得意科目の克服 ☆会場模擬テストなどで入試の雰囲気慣れる
9月	二者面談 2日(月)～5日(木)	◇○会場で行われる模擬テストなどに参加する	
10月	第2回進路希望調査 11日(金)～17日(木)提出 第2回進路説明会(生徒・保護者) 高校の先生の話聞く会 17日(金) 三者面談 25日(金)～11月1日(金)	◇○推薦希望者は早めに相談を ◇○志望校の学校見学・説明会に必ず参加しよう ◇○志望校を決める大切な面談人任せにせず自分の意志で ◇○入試関係の書類を手に入れる	第2回領域別テスト 10日(木)

11月	受験写真撮影 1日(金) ESAT-J 24日(日) 第3回進路希望調査 18日(月)~22日(金)	◇受験用証明写真撮影 ◇担任との連絡を密にして、手続きや書類のミスがないように注意する ◇先生達との模擬面接練習	第2回定期考査 6日(水)~8日(金)
12月	三者面談(最終) 2日(月)~9日(月) 推薦願・併願優遇願等提出 調査書作成依頼書提出 入試相談(私立推薦・併願) 15日(日)~ 出願書類作成 面接練習 (自己PRカード・調査書作成)	◇○都立推薦・一次前期はインターネット出願が多数。12月中に対応 ○入学金等の準備	◎総仕上げ ☆過去問などをチェック 直前のチェックも
1月	私立推薦出願・入試・発表・手続 都立推薦出願 9日(木)~16日(木) 私立一般入試出願 都立推薦入試 26日(日)27日(月) 発表・手続 31日(金)	◇推薦などで早めに進路先が決まっても高校入学まで気を抜かず学習を続けること ◇都立推薦・一般出願はインターネット出願になるので、必ず期限内に提出	
2月	都立一般出願 1月30日(木)~5日(水) 私立一般入試・発表・手続 都立一般入試 21日(金)	◇最後まで諦めずに進路選択を行い、卒業式まで意識を高めて学校生活を送ること	第3回定期考査 25日(火)※3年のみ
3月	都立一般発表・手続 3日(月) 都立二次出願 6日(木) 都立二次入試 11日(火) 都立二次発表・手続 14日(金) 定時制二次 出願・入試・発表	◇自分のやるべきことを把握して、ベストを尽くす	・学年成績は進学予定校へ提出します。

3 中学校卒業後の進路区分

中学校卒業後の進路には複数あるが、自分の将来や家庭の事情などをよく考え、慎重な態度で決めていくことが大切です。最終的には、生徒自身が決めることとなりますが、ご家庭の考え方や保護者の意見などのアドバイスを受けながら、よく時間をかけて話し合いを進めてください。

就職について

就職 中学校の教員が職業斡旋の委嘱を受けています。中学校の教員がハローワーク(旧職業安定所)と就職を希望する生徒に関して連絡を取ることになっています。ハローワークを通した新規中卒者求人 は厳しい状況で縁故による就職が大半です。

※ 都立職業能力開発センター:ハローワークのもとで、1~2年で専門的な技術を教えてくれる学校

(1)職業の選択にあたって

自分の性格や趣味など、自分についてよく理解し、周囲の人たちの意見も考え合わせて決定することが大切。

- 仕事の内容が詳しくわかっているか。
- 能力、体力、希望に合っているか。
- 賃金や労働時間はどうなっているか。

- 資格を必要とする職業かどうか。
- 昇級や昇進など将来の見通しはどうなっているか。
- 働きながら定時制高校・通信制高校に進学できるか。

(2)就職を選ぶ人が身に付けておくべきこと

- 中学校での学業を最後までしっかり身に付けておくこと。
- 正しい言葉遣い(特に敬語)や礼儀作法を身に付けておくこと。
- 人の手を借りず自分の身の周りの始末は自分でできること(朝の起床など)。
- 自分の仕事に責任をもつこと。 ルールや決まりを守ること。

(3)就職までの流れ

11月下旬から12月上旬に、いろいろな会社の求人状況がハローワークを通して発表される。就職したい事業所が決まったら、見学に行き仕事の内容、賃金、勤務時間、通勤、福利厚生、働きながら定時制高校等への進学ができるかなど、慎重に考え決定する。

1月1日以降、各会社の採用試験(統一選考)が始まる。面接や適性検査あるいは学科、作文などが行われる。

就職を考えている人は、保護者・担任とよく相談し、早めにご連絡ください。

(4)都立職業能力開発センター(旧技術専門校、旧職業訓練校)

現在13校の職業能力開発センターがあり、社会から要求される中堅技能者の養成を行っている。特に学歴は問わないが、一部科目においては高等学校卒業程度の基礎学力が必要になる。修業年限には2ヶ月、6ヶ月、1年、2年とさまざまある。また、働きながら技術の向上をめざす人にはキャリアアップ講習(短期)もある。推薦入校の制度もある。一般選考については、例年2月上旬に、学力検査(国語・数学)、面接等がある。職業能力開発センターは、一部科目において授業料が有料。また、教科書代、作業服代についても自己負担。修了者には職業能力開発センターやハローワークが、積極的に就職の斡旋をしてくれる。

(5)資格の必要な職業

職業の中には資格や免許がないと就職できないものがある。中学校卒業資格でとれる代表的なものは次の通りである。

美容師・理容師・クリーニング師・調理師・溶接士・2級建築士・ボイラー技師・3級自動車整備士など

進学について

進学 上級の学校などに在籍して、学ぶことを選択・決定すること。

上級学校の選択にあたって

志望校を選ぶには、次のようなことを考える必要がある。

- ① 将来の進路(職業)と結びつけて考える。
- ② 自分の適性に合っているか考える。
 - 学力 校風 自分のやりたいこと 通学時間、通学環境、地域環境

「高校の種類も参考に」

 - 全日制か定時制か通信制か 普通科か専門学科かその他の学科か
 - 都立高校か私立高校か国立高校か 男女共学か別学か など
- ③ 経費について確認する。
 - 入学時に必要な金額 1年間の必要経費 その他

(2)都立高校

- [1]全日制
- 学年制 — 普通科(外国語コースなどのコース制を設けている学校もある)
専門 ①農業 ②工業・科学技術 ③商業・ビジネスコミュニケーション
学科 ④産業 ⑤家庭 ⑥福祉 ⑦芸術 ⑧体育 ⑨理数 ⑩国際関係
⑪併合
 - 単位制 — 普通科、工業科、家庭科、芸術家、総合学科
- [2]定時制
- 学年制 — 【夜間】普通科(夕方～夜の時間帯)
専門学科(農業、工業、商業、産業、併合科)
 - 単位制 — 【昼夜間】普通科、情報科、総合学科(チャレンジスクール)
【夜間】普通科、工業科、総合学科
(昼間)デュアルシステム
- [3]通信制(普通科) ——— 自宅で学習し、レポートなどの添削指導を受けながら、月数回程度登校し、面接指導を受ける。

(3)高等専門学校(高専) — 5年制で工業に関する専門的な深い知識を学ぶことを目的とし、卒業すると短大卒業資格がある。

(4)私立・国立高校 ——— 基本的には都立高校と同じである。

(5)高等専修学校 ——— 技術や資格をとる学校(高卒資格や大検受験資格も取得可)

(6)サポート校 ——— 通信制高校と提携し、高校卒業資格を取得できる学校もある。

全日制高校

(1)国立高校(国立大学附属学校)

筑波大学附属高校・東京学芸大学附属高校・筑波大学附属駒場高校などがある。

一部通学時間などで制限のある学校があるため注意が必要。ほとんどが国立大学の附属校だが、大学進学の際の「優遇制度」はない。ただし、東京工業大学附属科学技術高等学校は、東工大への特別選抜(約10名)がある。

出願は1月上旬。試験日は2月上旬にあり、科目は5教科が多い。

(2)都立高校

① 都立高校の入学者選抜試験の概要

東京都教育委員会発行の「令和6年度 東京都立高等学校に入学を希望する皆さんへ」を7月頃、各家庭に配布いたしますので、そちらをご確認ください。

□ どの都立高校にも出願でき受験することができる(学区はない)。

□ 推薦に基づく選抜(1月)

- ・ 推薦入試の選考は、調査書、集団討論や面接の結果及び推薦入学願書に基づいて、各学校が総合的に行う。自己PRカードが面接資料として活用される。また、小論文または作文・実技検査等を実施する高校はその結果も含む。(学力検査は実施しない)

- ・ 推薦入試による合格者の入学辞退、他校受検はできない。不合格の場合、一般入試を再受検できる。
- ・ 一般推薦は多くの学校で実施される。他に、文化・スポーツ等特別推薦を実施する高校がある。

□ 学力検査に基づく選抜(2月)

- ・ 学力検査の得点と調査書等の得点と英語のスピーキングテスト(ESAT-J)の総合得点(1020点満点)で判定される。なお、都立高等学校では、学力検査の得点と調査書点の合計(1000点満点)にESAT-J結果の点数を加え、総合得点(1020点)を算出する。

学力検査の点数と調査点を合計するときの割合は、原則は7:3である。

(学力検査の満点が700点、調査書点の満点が300点、スピーキングテストの満点が20点)

- ・ 都立高等学校では、AからFまでの6段階で提出された評価を、次の表のとおり、20点満点の点数として取り扱う。

ESAT-J結果(評価)	A	B	C	D	E	F
都立高等学校で取り扱う点数	20点	16点	12点	8点	4点	0点

- ・ 調査書点は、各教科の評定の合計を換算した点(換算内申)のこと。
- ・ 学力検査(一次募集)では5教科(国・数・英・社・理)で実施する学校が多い。
なお、傾斜配点をする高校、3教科を自校作成問題で実施する高校など、選抜方法が高校によって様々なので、注意が必要。
- ・ 前期と後期の分割募集をする高校や特別選考を実施する高校がある。

□ ここ数年の入試制度の主な改正点

- ・ 解答用紙の一部にマークシート方式が導入された。
- ・ 調査書点5科が1倍、実技4科が2倍で計算され、満点は65点となる。
- ・ インターネットを使ったWeb出願が、多くなっている(インターネット環境が必要)。
- ・ 英語でスピーキングテストが導入された。

② 進む都立高校の多様化

ここ数年で、都立高校の多様化が進み、新しいタイプの高校が開設された。選抜の方法も高校ごとに異なる。都立高校でも説明会を盛んに行うようになっており、選択の幅が広がったので十分に調べ、慎重な進路選択が求められる。

- 学年制の高校だけでなく、学年制と単位制の2つのタイプの高校がある。

- 学科も普通科や専門学科とは異なる様々な学科の高校がある。

<単位制の総合学科高校>

晴海総合、つばさ総合、杉並総合、青梅総合、若葉総合、葛飾総合、東久留米総合、世田谷総合、町田総合、王子総合、総合芸術

<エンカレッジスクール> 練馬工科、中野工科、東村山、足立東、秋留台、蒲田

<チャレンジスクール> 稔ヶ丘、世田谷泉、桐ヶ丘、大江戸、六本木、小台橋

- 昼夜間の定時制高校(新宿山吹、荻窪など)が近隣に開設されている。

- 進学指導重点校の指定(青山・立川・国立・日比谷・戸山・西・八王子東)や進学指導特別推進校(小山台・駒場・新宿・町田・国分寺・国際・小松川)などがある。

- 都立中高一貫校の高等学校段階での募集はすべて停止となった。

(3)私立高校

① 推薦入試について

- 大多数の高校で学力検査は行わず、中学校から送る書類(調査書・推薦書)・面接・作文等で合否の判定を行う。
- 1月中旬に選抜が行われ1月下旬には合否が決定する。
- 仮に不合格でも一般入試は受験することができる。
- それぞれの高校の基準を満たしていることが必要。
- あらかじめ受験高校と中学校側との間で入試相談をする推薦入試がある。
- 高校側が示す条件を満たし、さらに合格後は必ずその高校に入学することが条件で優遇される。
これらの条件を満たして初めて出願を行い、審査の結果合否が決まる。高校によっては、推薦条件を明示し、入試相談を通さず、一般公募推薦のような形式で推薦入試を実施している高校もある。そのような推薦入試は高倍率となることが多い。

② 一般入試について

一般入試は、特に条件なく受験するものと、下記のように条件をつけて優遇してもらうものの二通りがある。

□ 第一志望優遇受験

推薦受験ではないが、合格した場合、入学することを条件に優遇される制度。受験時に第一志望であることを願書に明記すると加点が入試の得点に加えられるものが多い。そのための基準を示す高校もあれば、基準なしで第一志望受験者すべての者に加点する高校もある。

□ 併願優遇受験

他校を第一志望とするが、不合格になった場合は、その学校に入学するという約束が前提になった受験制度。

推薦入試と同じように、3年生の12月の成績が〇〇以上で、遅刻・欠席日数が〇〇日以下、などの条件がつく。(学校によって条件は異なる)

受験校と中学校側で行う入試相談で高校側から出願が認められればかなり優遇される制度

※ 私立高校は、他にも様々な入試制度があり、優遇する程度も様々。年によって変わる場合もあるため、しっかり調べることが大切。

※ 推薦入試で募集人員の半分近くが合格し、あとの半分も上記のような制度を利用する受験生が多い学校は、何の優遇措置もなく受験する生徒にとって合格の難易度がかなり高くなってしまう場合がある。

③ スポーツ推薦制度について

中学在学中に部活動等で顕著な成績を上げた者に対して、高校から入学の勧誘がある場合がある。この場合、極めて有利な扱いを受けるが、部活動を続けることが条件となり、途中でやめた場合、高校も退学しなければならなくなる場合もある。全都・全国から選ばれてくるので、厳しい練習、競争が予想される。高校側で決めた学力の最低基準をクリアできなければ不合格になるため学業もおろそかにできない。なお、部活動の顧問の先生や本人に連絡があっても、最終的には担任が手続きを行うため、必ずその経過や結果を保護者の方から担任に伝える必要がある。

定時制高校

定時制の修業年限は原則4年間だが、高校卒業後の資格は全日制と変わらない。都立・私立があり、昼間の定時制もある。定時制高校は、就職した生徒に対し、高校教育の機会を与えることからスタートしたが、最近では、勤労学生より、高校を中退した10代、20代の方が高校卒業資格を求めて入学するというケースが増えている。また、昼間の定時制高校の人気が高くなっている。

(1)都立高校

- 昼夜間定時制には荻窪・新宿山吹などがある。
- 近隣には豊島・大山・立川・神代・農芸・小金井工科・工芸・第五商業などがある。
- チャレンジスクール(三部制の定時制単位制高校)六本木、大江戸、世田谷泉、桐ヶ丘、稔ヶ丘、小台橋が開設されている。
- 単位制では飛鳥・板橋有徳・東久留米総合などがある。

(2)私立高校 科学技術学園高校(昼間定時制) など

高等専門学校(5年制)

工科高校以上の専門的な職業教育を行う。卒業後は短大と同等の資格が取得できるため、大学3年に編入することが可能。

(1) 国立高校・東京工業高等専門学校…機械工学・電気工学・物質工学・電子工学・情報工学

(2)都立高校

産業技術高等専門学校(品川キャンパス)…機械システム工学・AI スマート工学
電気電子工学・情報システム工学
(荒川キャンパス)…情報通信工学・ロボット工学
航空宇宙工学・医療福祉工学

(3)私立高校

サレジオ高等専門学校 … デザイン学科・電気工学科・機械電子工学科・情報工学科

高等専修学校

近年、高等専修学校が増加してきている。高等専修学校には通信制高校と提携し、卒業と同時に高校卒業資格を取得できる学校もある。また大学入学資格文部科学省指定校となっている学校もある。

- 高等課程 中学卒業者が対象。一般に高等専修学校と呼ばれている。
- 専門課程 高等学校卒業者が対象。一般に専門学校と呼ばれている。
- 一般課程 入学資格を問わない。

その他

- サポート校(通信制高校と連携して、高卒資格を取得できる学校もある)
- 補習校
- フリースクール等

4 都立高校と私立高校の違い

	都立高校	私立高校
教育方針	東京都教育委員会の教育方針に基づくが、独自の特色を打ち出す学校が増えてきている。	各校が「建学の精神」をもっており、独自の理念に基づいた教育を行う。(宗教教育、独特の授業や行事など)
学校生活	男女共学。自主性を尊重する傾向がある。	男子校、女子校、共学校がある。設備などが充実している。
学習	普通科の他に、様々な専門学科(工業科、商業科、農業科など)がある。普通科は、3年生から文系、理系に分かれてクラス編成をしたり、選択科目を設けたりしている学校もある。	普通科が多いが、英語コース、進学コース、情報処理コースなど、様々な特色がある。 中高一貫校は系列中学校から進学してきた生徒と一緒に学ぶことになる。
進路	上記のように様々な専門学科があるので、それぞれの学校で、多様な進路に対応した指導が行われている。また、大学への指定校推薦枠を多くもっている。	多様な進路指導がなされている。「進学校」として進学向けのカリキュラムを組む学校もある。また、大学の附属校で、系列の大学に優先入学できるところもある。ただし、優先条件は様々で、希望の学部に進学できるとは限らない。
学費	約15万円(1年次に納入する額) (制服や体育着代などは除く)	約80万~100万円→実質負担は減ってきている (1年次に納入する額の平均。学校によって差が大きい。任意で寄付金を募る学校もある。)
※ 各種奨学金制度、支援金制度あり(個別に相談してください、P15,16に資料あり)		
入試制度	推薦入試について	
(1)推薦入試	推薦入試とは、石西中の上級学校推薦委員会において 本校の推薦基準 に照らして協議した上で、学校長が認めた生徒が受験できる入試です。その学校へ入学する強い希望をもっていることも条件となりますから、合格したら必ず入学することになります。都立、私立ともに実施する学校が多く、一般の入試の前に合否が決まります。	
① 試験日	1月26日(日)・27日(月) (2日間行う学校もある。)	例年だと、1月22日が多い。
②高校側の 出願条件	<input type="checkbox"/> 志望目的が明確で、理由が適切であること <input type="checkbox"/> 入学したいという強い意志をもっていること <input type="checkbox"/> 人物が優れていること <input type="checkbox"/> 中学校長に推薦を認められた人物であること	都立の欄の5つに加え、12月の中学校の成績、出欠などが、その学校独自に定める基準に達していること 例「9教科の成績が合計〇〇以上であること」 「国数英の合計が〇〇以上であること」 「年間で欠席〇日以内であること など
③選抜方法	調査書と 集団討論 ・個人面接、作文または小論文、実技テストなどによって合否を決める。 ※ 高倍率	多くが面接と作文だが、面接だけの学校、適性検査も行う学校など学校によって様々。 ※入試相談を行う場合、一般入試よりも合格しやすい。
(2)一般入試 ①試験日	2月21日(金) 一部、募集を分けて入学試験を行う学校があるが、後期募集は倍率がかなり高くなる。	都内:2月10日~12日 他県:1月下旬~2月初旬 日程が異なれば複数の学校を受験できる。募集を複数回に分けて試験を行う学校もあるが受験日によって募集人員が異なるため注意が必要。

②選抜方法	学力検査の得点と内申点を一定の割合で合計し、スピーキングテストの結果を足して合否を決めるところがほとんど。面接を実施するところもある。 合格発表の日程が私立や国立よりも後なので補欠合格はない。万一欠員が出たら3月上旬に二次募集が行われる。	入学試験、面接、調査書の総合成績で決定するが、入学試験と面接を重視する学校が多い。(1教科でも一定の点数を満たさないと不合格になる学校もある) 第一志望優遇制度、都立との併願など様々な制度がある学校が多い。
③試験科目	5教科(国数英社理)の学校が多いが、3教科(国数英)や、作文などを書く学校もある。共通問題を使用する学校と自校作成問題を使用する学校がある。	3教科(国数英)と面接が多いが、作文を書く学校もある。それぞれの学校が独自の問題を出題する。学校によって傾向、形式が異なる。
④入学手続	合格発表日の翌日まで	合格発表後数日間だが、都立の一次合格発表日まで待つところもある。

5 「体験入学」「学校説明会」「学校見学」「個別相談」について

「体験入学」「学校説明会」「学校見学」など実際に高校を訪問することで、通学方法や通学時間はどうか、標準服、校舎や施設・設備、授業の様子といった高校の特徴を自分自身の目で確認することができる。そのため、インターネット情報やパンフレット情報だけでなく、実際に学校を訪れて情報を得ることが大切。

「個別相談」は、入学を希望する生徒に対して、高校が合格の可能性について相談してくれる場となるため、その高校に入学したい希望が強い人は、「個別相談」を受けるとよい。多くの私立高校で実施していて、事前に予約が必要な場合が多い。

※高校を訪れる際は、私服で公共交通機関を利用して行くこと

6 Q&A 保護者の方からの質問にお答えします。

- ① AO入試や私立の推薦について細かく知りたい。
 - AO入試は私立通信制高校のごく一部で行われています。本人の得意なことをアピールするという試験方法です。
 - 私立高校の推薦は、各校が定める内申基準等を満たしており、その学校が第一志望(単願推薦)である。本校の学校長が推薦をしているということが基本的な要素になります。
- ② 内申について知りたい。
 - 内申とは調査書に記載される中学校の各教科の評定値を合計したもので、素内申と換算内申があり、素内申とは評定をそのまま合計したもの、換算内申とは、5教科の合計に4教科の合計を2倍して足したものです。都立受検で使う「調査書点」とは換算内申を300点満点に計算したものです。
- ③ 都立推薦入試の決定時期について。
 - 都立推薦入試の受検校を確定させるタイミングは、12月の三者面談が終わるまでには決定できるとよいです。(出願ギリギリまで決められないのはお勧めできません。)
- ④ 私立併願校の選び方を知りたい。併願優遇が取れば必ず受かるものなのですか？併願優遇の規準が取れず、一般で受ける場合、偏差値が足りていれば合格できるもののでしょうか？
 - 私立併願校の選び方ですが、まず、自分の内申点から、併願優遇の基準に足りている学校をいくつか挙げます(基準は高校案内に載っています)。そして、実際に見に行き考えて下さい。※学校訪問に来ていないと、優遇を受けられない学校もあります。
 - 併願優遇の場合、入試の前に入試相談というものを中学校と私立高校側で行います。各校の定める

基準に達していれば、非常に高い合格の可能性をお約束いただけます。(ただし100%とは言えません。)また、併願優遇を使わず、一般入試でも合格している生徒はおりますが、優遇制度で定員に近くなってしまう学校もあります。

- ⑤ 2023年度入試の進学実績をお聞かせ下さい。
- 過去3年間の進学校は資料④に載せてございます。昨年度は都立高校に90名、私立高校に120名、他県の全日制高校や専修学校に5名進学しました。
- ⑥ 行きたい学校が決まったら、学校説明会には毎回参加した方が良いのか。最終的に進路を決めるのはいつ頃か。
- 説明会の内容に応じて参加すべきかご家庭で判断してください。高校の学校見学・説明会・個別相談会に行った際は、「参加した」という実績を残すため、高校で名前を書いてくることを忘れないで下さい。個別相談などで高校の先生と直接話すチャンスがあるときは話をするとうれしいと思います。その際、加点措置についての説明などを受けた場合は、必ず担当の先生の名前をメモしてきて下さい。
 - 最終的な決定は、第3回進路希望調査を提出するときです。
- ⑦ 都立高校入試について近年からの大きな変更点があれば教えてください。
- 大きな変更点としては、スピーキングテストの導入です。また、出願方法もネット出願が主流となります。ただし、今年度版の都立高校入試要項はまだ出ていません。例年9月下旬に東京都の説明会(学校向け)がありますので、次回の進路説明会か、進路だよりなどでお知らせします。
- ⑧ 個人面談以外で進路相談はできますか？その場合、どのように申し込めば良いですか？
- 基本的には面談の時間に行いたいと思いますが、それだけで足りない場合は担任に直接ご相談ください。電話よりは事前にお手紙などで内容を知らせて頂ける方が回答を準備してお答えできるので助かります。面談の前に各ご家庭でじっくり話をし、できるだけ質問やご家庭の考えをまとめてきて下さい。生徒自身が直接担任に相談に行くのも良いと思います。
- ⑨ 学校説明会など積極的に訪問した方がよいのでしょうか？見てくる、聞いてくるポイントは何でしょうか。今の成績から割り出した偏差値等で行けそうな学校をしばった方が良いでしょうか？
- 説明会や見学会は積極的に参加した方が良いと思います。見てくるポイントは、通学時間、通学手段、制服、学校の雰囲気、学校の施設・設備、生徒の様子、先生の様子など、行って感じる事全てです。
 - 今の成績で学校をしばる必要はないと思いますが、目安としていくつか候補を考えるのは良いと思います。今後成績が上がる可能性もありますし、その逆もあります。偏差値というのはおそらく模試の結果に表れると思いますが、中学校では偏差値による進学相談を行うことはできませんのでご承知置き下さい。
- ⑩ 内申点と入試得点について知りたい。例えば、オール4が基準とされている場合、3があっても5で補うことができるのか。また、内申点が基準に満たなくても、入学試験の得点が高ければ合格できるのか。
- 「全教科4以上」という出願基準がある場合、「3」の教科があるとたとえ「5」の教科があっても基準を満たすことにはなりません。「9科36」という基準の場合、「3」の教科があっても「5」の教科があることで基準を満たすことができます。各私立高校の基準をよくご確認ください。
 - 私立推薦入試で出願基準に明確な内申点の条件がある場合、その条件を満たさなければ受験ができません。都立の受検では、出願条件に内申点などの基準はありません。当日の学力検査の得点と調査書点の合計で合否が決まります。

昨年度の資料を基に作成しました。

資料1 都立高校総合得点の計算の仕方

都立高校総合得点(学力検査の得点 700 点 + 調査書点 300 点)の計算の仕方

① 学力検査を実施する5教科(国・社・数・理・英)の評定をそのまま足します。

国語	社会	数学	理科	英語	合計
					(ア)

② 学力検査を実施しない4教科(音・美・保体・技家)の評定の合計を2倍します。

音楽	美術	保体	技家	合計	2倍
					(イ)

③ (ア)+(イ) が**換算内申**です。

④ 調査書点は $300 \times \text{換算内申} \div 65$ で求めることができます。

⑤ 学力検査を実施する教科(国・社・数・理・英)の当日得点の合計を **1.4 倍**します。

※1学期の期末考査の得点や、模試の結果などから出してみましょう。

国語	社会	数学	理科	英語	合計	1.4 倍

←これが学力検査の得点です

⑥ 学力検査と調査書点の得点を足したものが**総合得点**です。

⑦ 今年度より都立高等学校では、AからFまでの6段階で提出された評価を、次の表のとおり、20点満点の点数として取り扱い、**総合得点**に加算されます。(1020点満点)

ESAT-J結果(評価)	A	B	C	D	E	F
都立高等学校で取り扱う点数	20点	16点	12点	8点	4点	0点

資料2 本校の推薦基準

本校の推薦基準

- 社会生活の基本となるルール、すなわち学校のルールを守っている生徒
- 中学生としてふさわしい基本的な生活習慣(時間を守る、遅刻をしない、規則正しい生活など)が確立している生徒
- 挨拶がしっかりとでき、服装・身だしなみが整い、きちんとした礼儀や言葉遣いが身に付いている生徒
- 日々の授業に主体的かつ前向きに取り組み、目的意識をもって、継続して努力している生徒
- 生徒会活動、学級活動、部活動、芸術やスポーツなどの活動で、顕著な活動を行っている生徒
- 学校行事や地域活動に積極的に参加し、意欲的に取り組んでいる生徒
- 集団生活がしっかりとでき、思いやりの心をもち、自他を大切にして周囲と協調していける生徒
- 人の話をしっかりと受け止め、成長していける生徒

第1回進路希望調査

3年__組__番 生徒氏名_____

保護者氏名_____

1 将来どのような仕事をしたいと考えていますか。

仕事	就きたい具体的な職業があれば記入してください

2 中学校卒業後の進路について、どのように考えていますか。該当するものに○をつけてください。

- ① 進学 ② 就職 ③ 未定

3 現段階で都立・私立に関わらず学校推薦を希望しますか。該当するものに○をつけてください。

※あくまで、現段階での希望で、これで最終決定ではございません。

- ① 希望する ② 希望しない ③ 未定

4 上級学校進学を希望する人は、現在考えている第1希望にそれぞれの項目で○をつけてください。

希望する学校	課 程	学 科
① 国公立	① 全日制	① 普通科
② 私立	② 定時制	② 専門学科【工科・商業・農業】
③ その他	その他の専門科	【 】
④ 未定	③ 通信制	③ その他
	④ 未定	

5 現段階で、すでに見学や説明会に行った学校や夏休み等で見学する予定の学校名をご記入下さい。

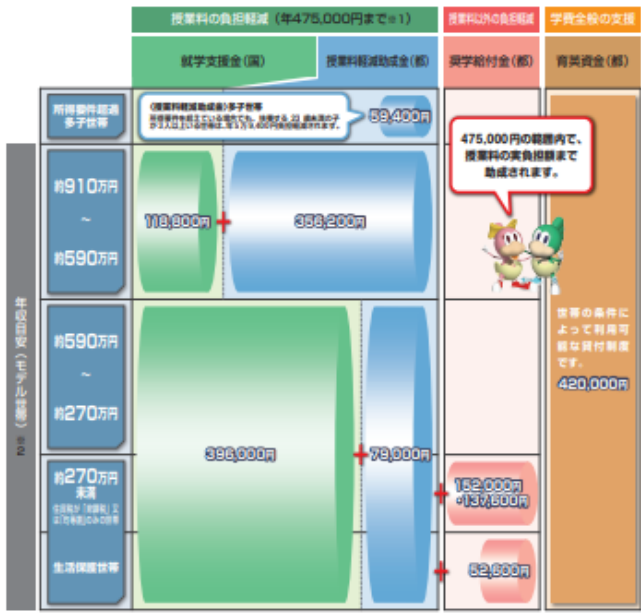
すでに見学した（資料請求した）学校	これから見学する予定の学校
-------------------	---------------

6 7月の三者面談に向けて 学習面・生活面・夏休みの予定などについて話し合います。
相談したいことや質問等があればご記入ください。

資料4 過去4年間の石神井西中卒業生の進路実績

資料5 高等学校就学支援金制度について

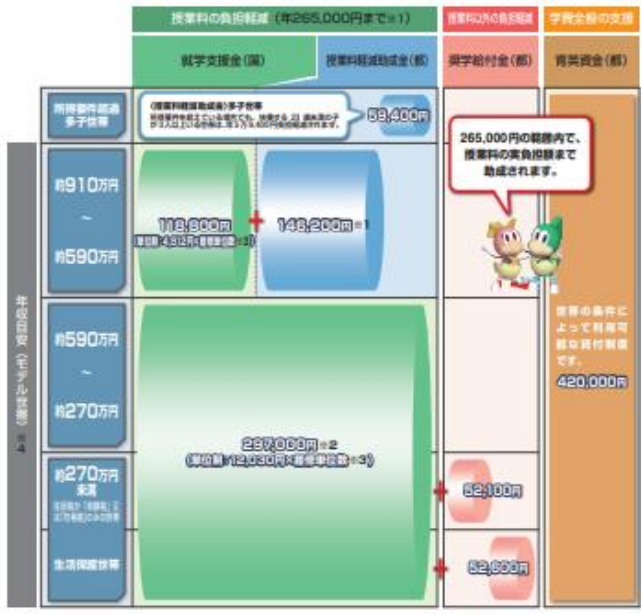
私立全日



※1 年収目安約910万円未満の世帯における授業料の負担軽減額(就学支援金と授業料軽減助成金の支給総額)は、475,000円の範囲内で、在学時の授業料額(保護者が負担した金額)が上限となります。
なお、授業料の実負担額や所得等の状況により475,000円に満たない場合があります。
また、就学支援金により授業料が全額軽減される場合は、授業料軽減助成金は支給されません。

※2 年収目安は、保護者1人のみ給与収入がある4人世帯(夫婦と子2人)をモデルとした場合です。
年収は目安であり、区市町村民税課税標準額等に基づき審査を行います。

私立通信



※1 年収目安約590万円～910万円の世帯における授業料の負担軽減額(就学支援金と授業料軽減助成金の支給総額)は、265,000円の範囲内で、在学時の授業料額(保護者が負担した金額)が上限となります。
なお、授業料の実負担額や所得等の状況により265,000円に満たない場合があります。
また、就学支援金により授業料が全額軽減される場合は、授業料軽減助成金は支給されません。

※2 年収目安約590万円未満の世帯における授業料の負担軽減額(就学支援金の支給総額)は、297,000円の範囲内で在学時の授業料額(保護者が負担した金額)が上限となります。

※3 1単位あたりの授業料が定められている場合は、標準単位に相当した支給となります。支給対象単位数の上限は、年間30単位で、在学中の合計は74単位が上限となります。

※4 年収目安は、保護者1人のみ給与収入がある4人世帯(夫婦と子2人)をモデルとした場合です。年収は目安であり、区市町村民税課税標準額等に基づき審査を行います。

※ 支給対象となるかどうか、支給額はいくらか等は、所得要件等により異なります。また、授業料以外の教育費を支援する「高校生奨学給付金」もあります。

詳細はインターネットで、「高校生等への就学支援」でお調べください

